【切手デザイン】

《流しびな》1988年・鳥取市用瀬町「流しびなの館」所蔵

鳥取市用瀬町が生んだ孤高の画家

前田直衛

まえだなおえ

生誕100年記念

○ 切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
○ 郵便料金納付のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に消印がかかることがあります。

凸版印刷株式会社製造

【切手説明書】

前田直衛、人と作品 ～母のぬくもりを求めて～

スケッチブック（鳥取市立中央図書館所蔵）

遺品の画材（鳥取市立中央図書館所蔵）

どの作品に使った絵の具かラベルに記されている

「祖母の像（絽）」1970年、京都尚院会展出品（京都府知事賞受賞）・50号・鳥取県立博物館所蔵

前田直衛は古都の伝統的な建築美を愛した画家として知られる。「雪の祇園」（1981）、「京伏見」（1982）、「宵宮」（1989）、「柚屋（ゆずや）」（1992）、「本屋」（1996）など、「京の老舗」シリーズと呼ばれる一連の作品は、幾何学的な構成と重厚な色調で、静謐さの中に人々の日常を浮かび上がらせた傑作として評価が高い。

これらの作品をじっと見つめていると、奇妙な符合に気付かされる。画面に人物は描かれず、決まって表口は少し開かれている。かすかに風にそよぐ暖簾の間からは店内の様子が垣間見える。土間には履物や民具の一部がのぞき、建物の内側からはほのかに灯りが漏れている。画面に人物は描かれていなくても、そこに住んでいる人々の息吹きを感じとることができるのだ。

直衛の父の生家である用瀬町鷹狩の小林家中庭（明治40年代）。左端が直衛の父、繁。

師・菅楯彦の画風を思わせる「家図巻」（部分）（個人所蔵）

うがった見方かも知れないが、こうした作品には前田直衛の不幸な生い立ちと幼時の記憶が投影しているのではあるまいか。直衛の父は農作業中の怪我がもとで、直衛が生まれる8か月前に亡くなっている。直衛は同じ用瀬町内にあった母の実家で育てられるが、やがて母は再婚。直衛も母を追って嫁ぎ先の佐治町に赴く。しかし、さまざまな確執から同居は永く続かず、小学校6年生の冬、育ての祖父母を頼って大阪に向かう。そして16歳の秋、鳥取市生まれの日本画家・菅楯彦との出会いが直衛に大きな転機をもたらすのである。

横山大観と同様、直衛も富士山を愛した。「富嶽」（20号・鳥取市所蔵）展示 用瀬地図❷

父を知らずに誕生し、母の愛情をたっぷりと受けることなく故郷を去るしかなかった直衛にとって、無機的な古都の建築美は孤独な魂を癒やしてくれる格好の素材であったのかも知れない。しかし、見るものを招き入れるように少し開いた表戸や、家屋の内側から漏れるほのかな灯りからは、直衛が求めてやまなかった家族のぬくもりや望郷の思いが伝わってくる。

「母のとり来たるを」と題されたワトドのスケッチ（1965年）

不思議なことだが、故郷・用瀬町の依頼で描いた「流しびな」や佐治町の依頼で制作した「紙漉き」、あるいは用瀬町の古民家を描いた「雪の因幡路」といった作品には、何故か人々の姿が描かれている。人物を描くことは稀だった前田直衛が、郷土を舞台にした作品には土地に根をはって生きる人々の姿を描いている。そこに、前田作品の秘密や絵画に込められたメッセージを読み解く鍵がありそうな気がする。西尾　肇（前鳥取市立中央図書館長）

絶筆となった「隠岐の舟屋」2008年、50号・鳥取市所蔵：展示 用瀬地図❷

編集　前田直衛顕彰会　発行　鳥取市用瀬町総合支所
協力　前田敦子、小林純一、徳永信典、鹿島市美術館、鳥取県立博物館、鳥取市立中央図書館
制作　角田　治、柏原繁司　発行日：2015年4月4日

「流しびな」1988年、100号・流しびなの館所蔵 展示❶

前田直衛

まえだ　なおえ

1915（大正4）年～2008（平成20）年

1989（平成元）年10月、京都の自宅にて（74歳）

1915（大正4）年4月28日、鳥取県八頭郡大村鷹狩（現・鳥取市用瀬町鷹狩）に生まれる。出生前に父を亡くし、小学6年の冬に親戚を頼って大阪に出る。さまざまな仕事を転々としたのち、日本画の巨匠・横山大観の代表作「生々流転」に出会って画家への思いをかき立てられ、1931（昭和6）年、鳥取市生まれの日本画家・菅楯彦（すが　たてひこ）の内弟子となる。1937（昭和12）年には菅楯彦の紹介状を携え、京都画壇の重鎮であった橋本関雪に師事。しかし、日中戦争の勃発により、終戦まで三度召集される。その間、1940（昭和15）年には、紀元二千六百年奉祝美術展覧会に「砲車」が入選する。しかし、中国から復員したときには師の関雪は他界しており、虚無感からその後十数年間、絵筆を置いた。

やがて、最良の支援者（伴侶）と出会い、1960（昭和35）年、第45回日本美術院展覧会（院展）に「波切」が入選したのを機に、本格的に制作を再開し、以後、院展を主な作品発表の場として制作に励む。1963（昭和38）年には日本美術院の「院友」に、1986（昭和61）年には「特待」に推挙されている。

初期には幾何学的な構成要素や技法を取り入れ新しい日本画を模索したが、1970（昭和45）年頃からは京都の老舗や古民家を取材した作品群の制作を始め、伝統的な建築美を通して、統一した色彩とおだやかな画風で人々の営みを描き続けた。2008（平成20）年12月23日、逝去。

（参考：「鳥取市人物誌　きらめく120人」2010年、鳥取市発行）

用瀬町総合支所内に設けられた「前田直衛ギャラリー」展示❸

略　歴

1915（大正4）年、鳥取県八頭郡大村鷹狩（現・鳥取市用瀬町鷹狩）に生まれる。
1931（昭和6）年、日本画家・菅楯彦に内弟子として入門。
1937（昭和12）年、菅楯彦の推薦で橋本関雪に師事。
（日中戦争勃発により終戦まで三度応召。）
1940（昭和15）年、紀元二千六百年奉祝美術展に「砲車」が入選。
1946（昭和21）年、中国より復員する。
1960（昭和35）年、第45回院展に「波切」が入選。
1963（昭和38）年、日本美術院「院友」に推挙される。
1964（昭和39）年、羽石光志に師事。
1970（昭和45）年、京都尚院会展出品「祖母の像（絽）」が京都府知事賞に。
1971（昭和46）年、欧州各国を遊歩。
1984（昭和59）年、紺綬褒章を受章。
1986（昭和61）年、日本美術院「特待」に推挙される。
1987（昭和62）年、第72回院展無鑑査出品「三条池田屋」。
1988（昭和63）年、第73回院展無鑑査出品「浪速の老舗」。
1993（平成5）年、第48回春季院展無鑑査出品「奥飛騨の街」。
1998（平成10）年、第83回院展無鑑査出品「出雲の里」。
2008（平成20）年12月23日、逝去（享年93）。

「砲車」1940年、4曲・個人所蔵（左）
「波切（なぎり）」1960年、第45回院展出品・150号・丸善石油所蔵（右）

前田直衛

まえだなおえ

鳥取市用瀬町が生んだ孤高の画家――生誕100年記念

【切手説明書】

京都散策マップ

前田画伯の名画で歩く

鳥取市立中央図書館に展示されている作品「本屋」1996年、150号・鳥取市所蔵
右は「本屋」のモデルとなった京都市寺町の老舗古書店「竹苞書楼」(2010年) 風景❶

「京島原 輪違屋」1973年、第58回院展出品・150号・鳥取県立博物館所蔵 風景❷

「京島原 角屋」1972年、第57回院展出品・150号・鳥取県立博物館所蔵 風景❸

「雪の祇園」1981年、第66回院展出品・150号・諏訪市美術館所蔵 風景❹

「宵宮」1989年、第74回院展出品・150号・鳥取県立博物館所蔵 風景❺

「京の老舗(柚屋)」1992年、第77回院展出品・150号・鳥取県立博物館所蔵 風景❻

「兜門(表千家)」2000年、第55回春季院展出品・50号・鳥取市所蔵 風景❼：展示 用瀬地図❷

「京祇園」1975年、第60回院展出品・150号・鳥取県立博物館所蔵 風景❽

「雪の鹿が峰(大虚庵光悦寺)」2000年、第85回院展出品・150号・鳥取県立博物館所蔵 風景❾

「古美術店」1990年、50号・鳥取市所蔵
風景❿：展示 用瀬地図❸

「京伏見」1982年、第37回春季院展出品・50号・鳥取県立博物館所蔵 風景⓫

用瀬(もちがせ)、佐治(さじ)を歩く

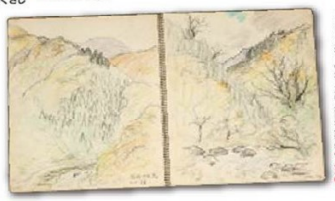
前田画伯のふるさと

スケッチブックより(鳥取砂丘)1970年、鳥取市立中央図書館所蔵

用瀬町内に現存する彼永家を描いた「雪の因幡路」1995年
第50回春季院展出品、50号・個人所蔵 風景❶：展示❶

用瀬町民会館内に設けられた前田直衛コーナー、
正面に展示されている作品は「古美術店」1990年、
50号・鳥取市所蔵 展示❶

スケッチブックより(「美しびな」制作のためのスケッチ)1988年頃、
鳥取市立中央図書館所蔵



スケッチブックより(春谷より細尾の風景)
1984年、鳥取市立中央図書館所蔵 風景❷

スケッチブックより(三角山の風景)
1984年、鳥取市立中央図書館所蔵 風景❸

佐治町内の「かみんぐさじ」に展示されている作品「紙漉き」1997年頃、50号・
鳥取市所蔵 展示❷

「水門」(用瀬町総合支所に展示されている1989年頃、50号・鳥取市所蔵 展示❸
(＊同じ構図の「水門」1982年、第71回春季院展出品作が鳥取県立博物館に所蔵されている)